

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32649

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K04203

研究課題名（和文）介護支援ロボットの利用が介護現場に与える影響の探求

研究課題名（英文）An Investigative Study on the Influence of Assistive Robotic Technology in Long-Term Care Facilities for Elderly

研究代表者

原口 恭彦（HARAGUCHI, YASUHIKO）

東京経済大学・経営学部・教授

研究者番号：20343452

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究において以下の点が明らかにされた。第一に、IT技術ネットワーク技術も含めた介護支援ロボットの活用により、職員の負担が軽減し組織の効率が向上した。第二に、導入に際しての教育に関する時間、費用としてのコストに負担感があった。第三に、職員の感情的側面において肯定的な反応が見られた。第四に、様々な言語化が求められるため、組織や職員の言語化した説明能力が向上した。本研究で明らかにされた結果は、その蓄積を深めることで介護サービス受給者の構成拡大のみならず、提供者の介護労働者の厚生拡大、組織効率の向上など、学術的意義を超えて大きな社会的意義を持つものと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は新技術の導入がもたらす諸問題、とくに個人の感情や個人と組織を取り巻く諸活動に焦点を当てている。そして、利用者だけでなく職員・組織を包括した分析を行ったことで、介護の現場において起こる、組織的・社会的現象について総合的に理解することを可能にした。とくに、職員のモラル変容、組織における言語説明能力の獲得など社会的にも意義のある研究成果が得られた。

研究成果の概要（英文）：The following points were identified in this study: first, the use of care support robots, including IT and network technology, reduced the burden on staff and improved organizational efficiency; second, there was a sense of burden in terms of time and cost related to training when introducing the system; third, positive reactions were observed in the emotional aspects of the staff; fourth, the verbalized explanatory skills of the organization and its staff improved because of the various verbalizations required.

The results of this study are of significant social importance, extending beyond their academic value. They indicate the potential for expanding the composition of long-term care service recipients and the welfare of long-term care workers. Furthermore, they suggest the possibility of improving organizational efficiency by deepening the accumulation of these results.

研究分野：社会福祉学

キーワード：介護支援ロボット 介護現場 モラル

1. 研究開始当初の背景

近年、高齢者介護事業を中心とした各種事業者において、介護支援ロボットの導入が検討され実際に導入され始めている。その目的は、大きく分けて二つある。第一の目的は、介護人材の需給ギャップに対する対応である。2025年度における介護人材の需給ギャップは約38万人、2040年度には同じく約60万人などと推計されている。将来の介護人材不足に対応した生産性向上ならびに業務効率化と言う観点からの導入が検討されている。第二の目的は、介護職員の肉体的・時間的負担軽減と、それを通じた介護職員のプロフェッショナル化、即ち専門性の深化と発揮である。

このような介護支援ロボット導入の背景には、厚生労働省や経済産業省による介護支援ロボット導入推進姿勢が存在している。たとえば、各省庁の審議会・研究会レベルでの具体的振興策の議論に加え、平成27年度補正予算においては『介護ロボット等導入支援特別事業』が計上・実施され、本年においても継続事業として各自治体を通じた補助事業が実施されている。

これら一連の政府予算の裏付けのもと推進されている介護支援ロボット導入の動きに対して、我が国における学術研究は、介護支援ロボットの開発並びに技術的課題解決に関する研究群(佐藤・郭・稲田・向井, 2012 など)と介護支援ロボットによる支援領域拡大を目指した研究群(本間・山田・松本・李・小野, 2010 など)という二つの流れに沿って進展してきた。二つの研究潮流は、おもに工学系並びに情報工学系の研究者によって積極的に推進されており、これらの研究が、介護支援ロボットの技術進化や普及に大きな貢献を果たしてきたことを言うまでも無いだろう。

しかし、これらの研究と比較して、介護支援ロボットの導入が介護職員や組織にいかなる影響を与えるのかという視点での研究がほとんどなされてこなかった。新技術が社会に導入される際に様々な影響が生じることは、過去の社会科学分野の研究において十分に明らかにされてきた。しかし、社会福祉分野における介護支援ロボットの導入については、このような視点からの議論が盛んに行われているとは言えない現状である。そこで申請者は、「介護支援ロボットが介護サービス利用者並びに導入組織に与える影響の解明」に取り組むに至った。

2. 研究の目的

本研究は介護事業者を研究対象としている。これらの組織におけるIT技術ネットワーク技術も含めた介護支援ロボットの活用がもたらす諸影響の解明を目指している。より具体的には、IT技術ネットワーク技術も含めた介護支援ロボットの活用が、組織に与える影響や職員に与える影響、さらには利用者に与える影響などの解明を目指している。

3. 研究の方法

本研究は、理論的研究、質的調査研究、量的調査研究の各段階を経て実施された。本研究の対象は、介護老人保健施設および介護老人福祉施設で行われた。

理論的研究においては、本研究に関連する既存研究、厚生労働省老人保健健康増進等事業における各種調査に関して検討を行った。さらに、本研究に関連する重要概念について検討を行った。

質的調査研究においては、介護老人保健施設および介護老人福祉施設において施設管理者、職員、利用者及び家族より聞き取り調査を実施した。また、業務フローに関連する各種二次資料の入手及び分析も実施した。量的調査研究では、介護老人保健施設および介護老人福祉施設を対象とした質問紙調査を実施した。

4．研究成果

本研究において以下の点が明らかにされた。第一に、IT 技術ネットワーク技術も含めた介護支援ロボットの活用により、職員の負担が軽減し組織の効率が向上した。第二に、導入に際しての教育に関する時間、費用としてのコストに負担感があった。第三に、職員の感情的側面において肯定的な反応が見られた。第四に、様々な言語化が求められるため、組織や職員の言語化した説明能力が向上した。

本研究で明らかにされた結果は、その蓄積を深めることで介護サービス受給者の構成拡大のみならず、提供者の介護労働者の厚生拡大、組織効率の向上など、学術的意義を超えて大きな社会的意義を持つものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 堀田彩・相馬俊彦・原口恭彦	4. 巻 36
2. 論文標題 役割曖昧性から就業継続意思への影響における行動の組織内異質性の調整効果	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 産業・組織心理学研究	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口恭彦	4. 巻 314
2. 論文標題 我が国における外国人介護労働者の受入れ制度に関する考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京経学会誌	6. 最初と最後の頁 97-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 一宮剛・原口恭彦	4. 巻 308
2. 論文標題 リーダーシップ研究の変遷：シェアド・リーダーシップの視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京経学会誌	6. 最初と最後の頁 23-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 原口恭彦	4. 巻 306
2. 論文標題 職務における社会的影響の認知が介護従事者の離転職意思に及ぼす影響 職務満足への媒介効果の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京経学会誌	6. 最初と最後の頁 191--207
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大上麻海・原口恭彦	4. 巻 42
2. 論文標題 社会 政治的要因が組織における個人イノベーションに与える影響に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本経営学会誌	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 相馬 敏彦・堀田 彩・白井 志津子・原口 恭彦
2. 発表標題 多くの部下を抱える上司の「分け隔て」が部下に受け入れられるための信念の力 LMX分化から組織サポートや離転職意思への影響を調整する上司の分配基準の効果
3. 学会等名 日本心理学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原口恭彦・一宮剛・光山誠
2. 発表標題 Perceived Social Impact, Perceived Social Worth, and Customer orientation behaviors Among Care Workers in Facilities Covered by Public Aid Providing Long-Term Care to the Elderly
3. 学会等名 The 13th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀田彩・相馬敏彦・原口恭彦
2. 発表標題 上司サポートの分化と離転職意思の関係におけるサーバント・リーダーシップの調整効果の検討
3. 学会等名 産業・組織心理学会 第36回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原口恭彦
2. 発表標題 非正規高年齢介護業務従事者の就業継続意思に与える職務関連要因の検討
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 相馬敏彦・堀田 彩・原口恭彦
2. 発表標題 上司のサポートは風土としての組織サポートを高めるか-上司サポートの多様性・一様性による調整効果-
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yosinori Shibata, Yasuhiko Haraguchi
2. 発表標題 Rating Agreement as a Moderator of the Relationship Between Prosocial Motivation and Turnover Intention in Long-term Elderly Care
3. 学会等名 International Conference on Emerging Trends in Economics and Social Sciences Disciplines (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀田彩・相馬敏彦・原口恭彦
2. 発表標題 フォールトラインの強さとパフォーマンスの関係における多様性風土の調整効果の検討
3. 学会等名 日本グループ・ダイナミクス学会第67回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 一宮 剛・原口 恭彦・相馬 敏彦
2. 発表標題 シェアド・リーダーシップと成果のメカニズム
3. 学会等名 産業・組織心理学会第37回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原口恭彦・大上麻海・一宮剛・光山誠
2. 発表標題 A study of the relationship between prosocial motives, job satisfaction, turnover intentions.
3. 学会等名 The 15th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大上麻海・原口恭彦
2. 発表標題 A survey for foreign employee 's adjustment and international mentoring.
3. 学会等名 The 15th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 光山誠・武藤高史・松本良太・二神明平・原口恭彦・大上麻海
2. 発表標題 ICT技術を核としたワークシェアリングサービスが介護職従事者に与える影響
3. 学会等名 第31回日本介護福祉学会大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------